<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E6%9D%91%E5%8C%97%E6%B5%B7>

江村北海的百科

江村 北海（えむら ほっかい、正徳3年10月8日（1713年11月25日） - 天明8年2月2日（1788年3月9日））は、江戸時代中期の儒者、漢詩人。名は綬。字は君錫、通称は伝左衛門、北海と号す。福井藩の儒者・伊藤竜洲の第二子。兄は伊藤錦里、弟は清田儋叟。

生涯

明石「**明石市**（日语：明石市／あかししAkashi shi[**\***](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E7%9F%B3%E5%B8%82)**/**[**?**](https://zh.wikipedia.org/wiki/Help:%E6%97%A5%E8%AA%9E)）是位于[日本](https://zh.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC)[兵库县](https://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%85%B5%E5%BA%AB%E7%B8%A3)南部濒临[明石海峡](https://zh.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E7%9F%B3%E6%B5%B7%E5%B3%BD)的城市，现为[中核市](https://zh.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E6%A0%B8%E5%B8%82)。」藩士「藩士是对日本江户时代的从属、侍奉各藩的武士的称呼。然而虽然一概称为藩士，也分为上士、下士等等。而且，严格的说，武士之外的足轻以及两者之间的也就是说没有“士格”的人们也包含在内，因此简单的认为“藩士=武士”是不正确的。也就是说藩士实际上指的是所有有藩籍的人士。但是，用藩士指代有“士格”的人的情况较多。

江户时代初期，更多的是指担当军役的士兵；到了江户时代中后期，更多的是指官员。」であり母の兄にあたる河村家で生まれ、そこで養育された。はじめ学問には無関心だったが、北海の俳諧を見た梁田蛻巖「江村北海は、蛻巖の詩の中でも「徐文長の詠雪に和す」を「尖新にして精巧」と賞賛している[1]。蛻巖はたびたび詩風を変え、成唐の詩人たちや袁中郎、鍾惺、譚元春などの影響を受ける。「天縦の才あり而して力を極めて鍛錬」し、晩年にいたるまで思いを字句に潜め続けた[2]。浅野長祚が『寒檠璅綴』の中で、好学の士のための必読書として『蛻巖集』を挙げている[3]。中根香亭は、新井白石・室鳩巣・三宅観瀾の詩と蛻巖の詩を比較し、「蛻巖は一生不遇で他の三人が栄達したのに遠く及ばないが、その風流高逸の境地は三人の夢想だにできないところである」と評している[4]。」に激励され勉学に専念。父の友人である丹後宮津藩の儒者・江村毅庵「见日本的诗经学史https://books.google.com.hk/books?id=-WREDwAAQBAJ&pg=PA307&lpg=PA307&dq=%E6%B1%9F%E6%9D%91%E6%AF%85%E5%BA%B5&source=bl&ots=49-lDBYmQp&sig=ACfU3U2DVvQqJaaJ1JWjjTc1lhKyoJJY-g&hl=zh-CN&sa=X&redir\_esc=y&sourceid=cndr#v=onepage&q=%E6%B1%9F%E6%9D%91%E6%AF%85%E5%BA%B5&f=false」の養子となる。藩主・青山幸道は北海に吏才があることに気づき次第に重用する。宝暦8年（1758年）、美濃郡上藩に移封の際、病を理由に辞任を願ったが許されず郡上に同行する。宝暦13年（1763年）に許されて京都に帰ったが、その後も時々郡上に行き教授し、または藩の諮問に応じた。安永4年（1775年）に幸道が隠居したのを機会に致仕し、京都の室町「**室町通**（むろまちどおり）は[京都市](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%B8%82)の南北の通りの一つ。[平安京](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E5%AE%89%E4%BA%AC)の室町小路にあたる。地下鉄が通っている[烏丸通](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%83%8F%E4%B8%B8%E9%80%9A)のすぐ西側の通りである。北は[北山通](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E5%B1%B1%E9%80%9A)から南は[久世橋通](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%85%E4%B8%96%E6%A9%8B%E9%80%9A)まで。途中[東本願寺](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E6%9C%AC%E9%A1%98%E5%AF%BA)と[京都駅](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E9%A7%85)で分断されている。」に対梢館を建て隠居する。天明8年（1788年）2月2日死す。享年76。本圀寺に葬られる。

著書

『日本詩史』5巻

『日本詩選』15巻

『授業編』10巻

『北海詩鈔』8巻

『北海文鈔』3巻

参考文献

江村北海『日本詩史』（岩波文庫、1941年）

竹林貫一編『漢学者伝記集成』（名著刊行会、1969年）